

## 特別企画:ミニ鍼灸万博

### 乳がん化学療法誘発性末梢神経障害

鈴木 春子<sup>1)</sup>

**Key Words :** 緩和ケアの鍼灸, 乳がん, 抗がん剤誘発性末梢神経障害 (CIPN),  
八風八邪, 脱毛

---

1] 無量光寿庵 はる治療院

#### 1, はじめに

がんは 1981 年から日本人の死亡率 1 位であるが、がん治療の進歩により生存率が向上し、長期生存の可能性が高まりサバイバーが増え、慢性疾患の様相がみられるようになった。しかし、抗がん剤の治療や治療が終わった後も、化学治療誘発性末梢神経障害 (chemotherapy induced peripheral neuropathy : CIPN) の痛みしびれは、患者の QOL・ADL を低下させる頻度の高い病態である。その予防や治療方法はまだ確立されていない。緩和ケアとは、患者の苦しみや症状を理解し、知識と技術そして心をもって対応しその人と家族の平和な日常を取り戻すことにある。

#### 2, 抗がん剤による末梢神経障害CIPNの原因

これには諸説あり、①シュワン細胞の障害による感覚神経の脱髄、②神経細胞の微小管の障害、③軸索萎縮などによる退行的変

化と考えられる。また本郷正豊の鍼灸重宝記によれば、「痺れはみな気血の虚なり 栄衛洩り経絡通ぜざるゆえなり しびるるところに刺(はり)して血をめぐらすべし」とある。

尚、CIPNの出現率が高い抗がん剤としてはシスプラチン・カルボプラチン・オキザリプラチン・パクリタキセル CIPNの高いがん種は乳がん・大腸がん・子宮がん・肺がんなどがある。

#### 3, 末梢神経障害にたいする鍼灸の機序

手足の骨間筋の八風八邪の置鍼は神経伝達物質であるSP(Substance-p) や、CGRP (Calcitonin gene related peptide) が放出され、局所的に血管拡張と血管透過性が更新することで神経修復がなされて神経伝達が改善され、しびれに影響すると思われる。鍼灸は体表から治療を行うことにより内臓を通過しないので、胃や肝臓、腎臓などへのダメージが少なく、侵襲が少ない。鍼灸は 2000 年前から緩和ケアの医療であったと考えら

れる。癒しとなることも大きな特徴と言える。

#### 4, 鍼灸治療

症例：40代女性、乳がんステージIV。主訴：抗がん剤 NK105 による末梢神経障害 (CIPN) 腎臓あたりの腰痛は骨転移であった。ぎっくり腰と思ひ発見が遅れた。結婚が遅く子供が2歳。抱っこをしてあげられないのがつらい。

#### 5, 東洋医学的診断

脾虚証 主訴：手足の CIPN。骨転移による腰痛、頭部脱毛の活性化。本治法：太白穴接触鍼（脾の経絡の気虚を補う）、中腕（胃気を補う）、手足のしびれに足の八風穴、手の八邪穴に置鍼 10～15 分、抗がん剤は身体が冷えるので女性に足三里三陰交の知熱灸必須、腎臓灸頭鍼、腰臀部痛(骨転移脊際に1mm)、脱毛（頭部散鍼）、頸肩部(鍔鍼)、百会に灸1壮を行った。

#### 6, 経過

鍼灸の治療では腫瘍マーカーが安定して骨転移の腰痛の軽減あり。痛みしびれに鎮痛薬ロキソプロフェンは2錠から1錠に減薬。

頭髪がほぼ抜けていたが、鍼灸後相当生えてきた。NK105の治療継続しながら生えてきた事例は珍しいことである。本例では鍼灸を休むと抜け、再開すると脱毛が止まった。鍼灸治療を行った末梢神経障害の女性16名に鍼灸治療後の感想を聞いた。身体的には、痛みしびれの改善7名、突発痛の改善3名、包丁が握れる3名、食欲の改善3名、精神的な面では、前向きになれる6名、リラックス5名、気分が良い3名、不安イライラの解消2名であった。

#### 7, 結論

「抗がん剤は効いているのに、しびれ痛みで続けられない」と苦しそうに語る男性の言葉をきいた。無念の思いが伝わった。25年前の言葉が忘れられない。がん専門病院緩和ケア科では鍼灸によるPICNの効果について研究が始まっていると聞く。すべてのがん患者さんがその人らしく元気にすごせるように、八風八邪が医療者や家族に周知されて患者の笑顔が広がることを心から願っている。

腫瘍マーカー	7月	8月	10月	11月	12月	1月	3月	4月	6月	7月
CEA	326	427	422	512	509	363	364	351	257	148
CA15-3	180	203	228	253	283	197	203	195	152	107
					↑					
				12月末から鍼灸開始						